

官民ファンドの特徴を明らかに！ 民間資金を活用する政策 実施機関の3類型

我が国経済の再生は、成長戦略の成否にかかっています。「日本経済再生に向けた緊急経済対策」（平 25. 1. 11 閣議決定）では、「民間投資の喚起による成長力強化」が盛り込まれました。市場経済の担い手が民間である以上、民間資金と民間活力をいかに引き出すかが、我が国経済を持続的成長に導くポイントです。

同経済対策を受けた平成 24 年度補正予算には官民ファンド関係予算が多く計上されています。官民ファンドのそれぞれの規模や事業内容等は明らかにされていますが、官民ファンドという集合体で見ると、その特徴がわかりにくくなっています。例えば、国庫補助金等により造成された基金や財投機関との役割が似通っています。コラムでは、官民ファンド等の民間資金を活用する政策実施機関を分析していく視点を示したいと思います。

（民間資金活用の機関）

官民ファンドは、「政府出資を中心に民間も一部を出資して政策目的にかなった投資を行おうとする組織」です。政策的意義があるものに限定して、民間で取ることが難しいリスクを取って民間投資を喚起するものであり、民間主導の経済成長実現を目的としています。他の類似機関と峻別できる明確な定義付けは行われていませんが、政府が「官民ファンドの運営に係るガイドライン」によって、定期的な検証を行う主な官民ファンドを絞り込んでいるので、一つのメルクマールとすることができます。

国庫補助金等により造成された基金も、民間資金を一部入れながら政策的な活動を行う組織です。例えば、建設業安定化基金は国土交通省・交付金と民間団体の出捐金を財源として造成され、債務保証を行って中小建設企業等への資金供給の円滑化を図っています。ただし、これらの基金の中には民間資金が入っていないものも多くあります。バブル経済期の自然増収や大型経済対策による補正予算で、新規造成や既存基金への積み増しが大規模に行われ、緊急性のない基金積み増しが行われたことや単年度主義の原則の趣旨に反するとの懸念が示されたことなどから、平成 25 年度以降、基金シートを作成して透明性を確保する努力が行われています。基金の概念も幅広いのですが、行政事業レビューで基金シートや地方公共団体が保有する基金等についてまとめられているので、これをメルクマールとして整理できます。

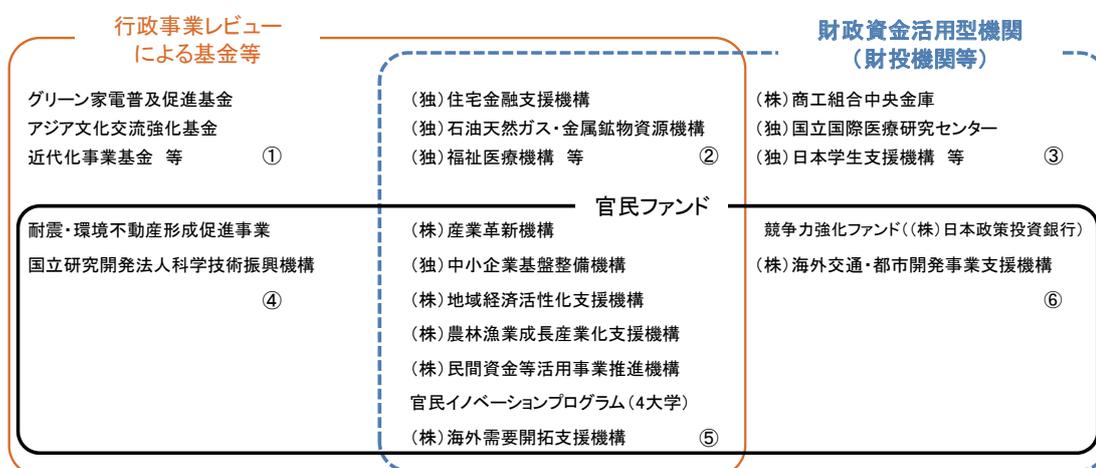
財投機関は、財投債(国債)の発行により調達された資金等によって構成される財政融資資金を活用するほか、自らも財投機関債を発行して資金調達を行い、政策的に必要な活動を行っています。財投機関は「当該年度に財政投融資を活用している

機関」とされ、その範囲は毎年国会に提出される財政投融资計画において示されます。ただし、当該年度の財政投融资計画に掲載されていなくても、以前に財政資金が出資されて活動財源として保有されている場合等もあるので、それらも含めて財政資金活用型機関として整理しました。

(政策実施機関の3類型の関係)

官民ファンド、国庫補助金等により造成された基金、財政資金活用型機関(財投機関等)のいずれも、財政資金を主な財源として、国からは独立して政策的意義のある活動を実施するために設置されています。共通要素も多いことから、場合によっては一つの組織が官民ファンド、基金、財投機関の三つの切り口から捉えられることもあります。これらの政策実施機関を「官民ファンドの運営に係るガイドライン」等に基づいて整理したのが、図1です。

図1 民間資金を活用する政策実施機関の関係 (平成26年度末)



(出所)「行政事業実施レビュー」、「官民ファンドの運営に係るガイドライン」、「財政投融资レポート」等より作成。

図1からは基金や官民ファンド、財政資金活用型機関は複数の枠組みによって重複して検証される仕組みになっていることが分かります。また、緊急経済対策において、民間資金・民間活力の導入として注目を集めた官民ファンドのほとんどは、既存の制度の中で概念の整理を行うことができることが分かります。

(まとめ)

共通の要素を持った政策実施機関を取り出し、それぞれの切り口からの分類を整理し、3類型の要素を持った機関がある一方で、例えば基金としてしか位置付けられないものや財政資金活用型機関としての仕分けしか行うことができないものがあることが分かりました。

図1の①～⑥に分類された機関は、それぞれ他の区分に分類された機関とは異なる特徴を持っています。例えば、民間からの資金調達について、官民ファンドが具体的なプロジェクトを前提に資金調達を行うのに対して、財投機関は全般的な活動に充てるために財投債や財投機関債を通して財源を確保します。今後、図1の枠組みを参考にしながら、これらの政策実施機関の特徴がさらに分析されることを期待しています。

(企画調整室 藤井亮二 内線 75011)